

A vertical photograph showing the dark silhouette of a person's head and shoulders in profile, facing right. The person is looking out of a window, through which a bright, warm sunset or sunrise is visible, creating a strong backlight effect. The scene is dimly lit, with the primary light source being the window.

本音

本音は、正面に置かれた瞬間、
役割に変換される。

近しい人の前ほど、言えなくなる。

距離ではなく、正面という位置が本音を壊している。

これは、勇気や誠実さの話ではない。

本音を言えないことを、
未熟さとして扱うのは簡単だが、それは構造を見誤っている。

黙るのは弱さではない。
言葉を選ぶのも臆病ではない。
それは、本音を守ろうとする反応だ。

正面に立つと、人は内容より先に役割になる。
関係が長いほど、その役割は厚くなる。

だから本音は、正面で二重に失われる。

ひとつは、見えなくなる。
真正面の光は強すぎて、
本音に必要な揺れや濃淡を消してしまう。

もうひとつは、見せられなくなる。
正面の一言は、関係そのものを書き換える可能性を持つ。

測られる位置に置かれた瞬間、言葉は形を失う。

だから人は、第三者を挟む。
だから場を選ぶ。

それは逃げではない。
圧を分散させ、役割を薄めるための配置だ。

本音は、対決ではなく交換を求めている。
一点で測られなくなったとき、言葉はようやく形を持つ。



正面には、置かなかった。

それが、本音を生かす唯一の配置だった。



Edition — 存在の芯
別景：本音

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026